

モロッコ政治月報（8月）

2016年12月26日
在モロッコ大使館

8月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎（14日～）ガルガラト地域における対密輸入オペレーションと舗装道路の建築工事の開始
- ◎（19日）滝沢外務大臣政務官とブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
- ◎（20日）第63回革命記念日におけるモハメッド6世国王演説

<内政・政局・治安>

1 内政

（1）第63回革命記念日におけるモハメッド6世国王演説

20日、第63回革命記念日においてモハメッド6世国王が国民に対して概要以下の演説を行った。

（ア）革命が、モロッコ国民による国王への献身と、祖国の自由と独立のために捧げられた犠牲を大切にするという不変の国家的意義を担うものである場合、革命は同様にモロッコがマグレブとアフリカに負う義務でもある。この歴史的な段階は、モロッコ抵抗運動とアルジェリア国家解放戦線の主導者達の連携と団結の証である。第2回革命記念日は、全マグレブ諸国に革命を拡大した機会となり、モロッコとアルジェリアの様々な地域で人民が蜂起するきっかけとなった。更に、モロッコ抵抗運動はアルジェリア革命に物質的・精神的支持をもたらし、これは、1953年より前に抵抗運動を無力化しようとした植民地勢力に逆らって、激しい抵抗運動となった。この蜂起と団結は、アルジェリア革命を活気づかせ、最終的に両国はアフリカの開放と独立において主要な役割を果たした。今日、アラブの民とマグレブ地域を取り巻く環境に対処するために、我々はこれまで以上にこの団結の精神を必要としている。これは、開発と治安にかかる共通の挑戦に対応するためである。

（イ）アフリカ諸国とりわけ開発途上の国々は現在、貧困、移住、戦争や紛争といった問題を抱えており、これらに加えて、生活の困窮のために過激主義やテロ・グループの

活動に身を投じる誘惑に苛まれている。これらの問題は、数十年に亘り植民地主義が行った悲惨な政策によって引き起こされた災いである。植民地主義はアフリカ大陸の富を篡奪し、市民の可能性と将来を拘束し、開発のための運動を妨げ、アフリカ諸国間において不和の種をまいてきた。しかしながら、植民地主義が招いたこれらの大損害にもかかわらず、我々は、アフリカ人の強い意思、その人的可能性と天然資源のおかげで、アフリカが自身の開発を確保し、自らその運命を変えることができると確信している。

(ウ) モロッコがAUにおける当然の地位に復帰するという我々の決定は、モロッコ国民の正義でもある(アフリカの)正義を推進するために、積極的に活動しようとする取組の現れに過ぎない。モロッコにとって、アフリカは地理的な属性や歴史的な結びつき以上のものである。アフリカは実際、愛情と敬意の感情、深い人間的・精神的繋がり、実りのある協力と具体的な連帯の関係を想起させる。要するに、アフリカは、モロッコにとって自然な延長であり、戦略的な深さなのである。この複数の分野における繋がりにより、モロッコはアフリカの中心となるとともに、アフリカはモロッコ人の心の中に地位を占めさせている。このために、アフリカはモロッコの対外政策の中心となっている。我々は、モロッコの利益がアフリカの利益でもあることを確信しており、モロッコの変化はアフリカなしには考えられない。モロッコは常に、対価を期待することなく、アフリカ市民に捧げている。新植民地主義と呼ばれるものと異なり、アフリカの正義と懸念のためのモロッコの取組が、富や天然資源の搾取のために行われたことは決してない。モロッコがアフリカとの協力を利用するのが当然である場合にも、モロッコは常に双方が利益を得られることを考えている。

(エ) モロッコはアフリカ諸国とともに、地域住民の生活に直接的な影響を与える人間開発プロジェクトや社会給付プロジェクトの実現に協力している。モロッコは医薬品を輸出するだけでなく、製薬研究所や保健施設そのものを建設しようと尽力している。モロッコはまた、職業・技術養成インフラやセンターを実現するとともに、漁村等において雇用と安定した収入を創出するプロジェクトを実施している。モロッコは小規模農家に対する協力を行い、エコシステムの保護を推進している。これらのプロジェクトの好例として、アビジャンのココディ湾保護・活用プロジェクトの実現が挙げられる。これは、モロッコとコートジボワールの民間セクターの積極的な関与を得つつ、両国の公的企業の間ユニークな協力モデルの下で実施された。モロッコとアフリカの兄弟国の関係を統べるこの統合された連帯のビジョンは、我々が可能性を開放するすべてのアクターが、モロッコのクレディビリティを保つためにその責任を果たし、そのコミットメントを守ることを要求する。

(オ) モロッコは、サブサハラ移民を受け入れるための真の連帯政策を採用した最初の開発途上国の一つである。統合された人間的なアプローチを以て、彼らの権利と威厳を守っている。この政策を実施するために、モロッコは、尊大さ、中傷や差別を排して、妥当かつ公平な基準に基づいて移民の正規化に取りかかっており、移民が居を定め、働

き、社会で威厳を持って生活するための適切な条件を創出している。

(カ) 全世界が、移民問題や移民が耐えている悲劇について話している。過激主義やテロの現象の広がりに加えて、とりわけ欧州において移民にその責任を結びつけようとする試みから、この状況は悪化する一方である。この文脈において、私は在外モロッコ人に対して、彼らにとって馴染みのないこの現象に直面する際には、イスラムの価値と昔ながらの伝統を守るよう呼びかける。私はまた彼らに対して、その名声を作り出す我々の高い評価を守り、この困難な状況を辛抱し、団結し、各々の居住国で平和・融和・共生の擁護者の最前線に常にとどまるよう要請する。我々は、在外モロッコ人が、イスラムのイメージの墮落や、多くの人命を犠牲にしたテロに堪え忍んでいる困難さを推察する。彼らは同様に信仰を理由に非難を受けている。

(キ) 開発、移民、テロとの闘いなど複雑な国際的・地域的課題に対するモロッコの回答は、アフリカ市民のための断固とした取組の一環をなす。これは驚くべきことではなく、モロッコは常にアフリカ大陸の開放の前衛に立ち続けてきた。我々は、アフリカを信じた先駆者として、アフリカ市民の団結・開放・進歩に誠実に尽力した先祖が歩んできた道をこれからも行く。

(2) 公務員年金改革に反対する参議院議員の訴えの棄却

7月に両院で採択された公務員年金改革法の採択手続に瑕疵があったとして、43名の参議院議員が当該法案は違憲であるとして憲法評議会に訴えていたが、憲法評議会はこの訴えを棄却した。憲法評議会は8月、この訴えに対して、採択手続に違憲性は見られないとした。なお、憲法評議会に違憲を訴えた参議院議員の多くは労働組合出身乃至同院における野党勢力であった。

(3) 衆議院春の会期の閉会

3日、モロッコ衆議院は4月から開催されていた春の会期を閉会した。

(4) 首相主宰閣議の開催

3日、ベンキラン首相は閣議を開催し、次期衆議院選挙にかかる選挙関連政令を含む4本の政令を採択した。

(5) 衆議院選挙前の世論調査の禁止

22日、内務省は、選挙関連法に従い、選挙プロセスの透明性と信頼性を保護し、選挙人の投票同行に影響を与えることを避けるため、世論調査の実施を禁止する旨発表した。

2 治安

● 4名のISIL支持者の逮捕（カサブランカ、ケニトラ）

16日、中央司法捜査局（BCIJ）は、カサブランカ及びケニトラ地方農村部モグララン（Mograne）で活動していた4名の過激主義者からなるテロ細胞を逮捕した。捜査によれば、ISILに忠誠を誓っていた同テロ細胞のメンバーは、モロッコの治安と安

全を脅かすため、I S I Lの計画に従い、カサブランカの重要施設を対象としたテロの計画を有していた。

<外交・国際関係>

1 我が国との関係

● 滝沢外務大臣政務官とブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談

(1) 19日、当地出張中の滝沢外務大臣政務官はブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談し、モハメッド6世国王宛総理親書を手交した。

(2) 滝沢政務官は、初のアフリカ開発となるTICADVIを成功に導きたい、モロッコ首脳のパレゼンスは会議の成功に重要、外交関係樹立60周年を迎えた二国間の幅広い協力関係を更に強化する好機ともなると述べた。また、5月にカサブランカで開催された日アラブ経済フォーラムの開催国としてのモロッコの尽力に感謝を述べるとともに、11月にマラケシュで開催予定のCOP22について、両国の協力関係を確認した。

(3) これに対し、ブーアイダ大臣は、日・モロッコ両国は、アフリカの開発問題に取り組むという共通の価値観を有しており、TICADVIの成功に向けて協力したい、また、両国間ではこれまで極めて友好的な関係が築かれているところ、政治・経済・文化面での協力関係を深化させたいと述べた。

2 西サハラ関係

(1) 西モーリタニア国境付近における対密輸入オペレーション

(ア) 14日からモロッコ治安当局及び税関が、西サハラのガルガラト地域で密輸入と不正取引を一掃するためのオペレーションを開始した。このオペレーションにより、中古車及びトラックの3か所の拠点を排除するとともに、600台の車両を押収した。

(イ) ガルガラト地域は西サハラ南西部に位置し、伝統的に西アフリカ向けの大量の不正取引（特に盗難車）が行われており、アフガニスタン南部の不正取引地にちなんで一般的にカンダハルと呼ばれている。

(2) モーリタニア国境付近における舗装道路の建設開始

(ア) 地方自治体コミュニケによれば、ガルガラト地域において、輸出入に携わる地域住民の要望を考察し、密輸入と不正取引を根絶するため、全長3.8kmの舗装道路の建設が開始された。

(イ) 舗装道路の建設は、14日からモロッコ治安当局及び税関が実施した同地域における密輸入及び不正取引を一掃するためのオペレーションの一環であり、道路使用者の治安と安全を確保し、この新たな道路を通じ物流状況の向上を目指すものとされている。

(3) ガルガラト情勢にかかる国連事務総長コミュニケ

(ア) 28日夜、国連事務総長室は、モーリタニア国境付近の「砂の壁」南側の緩衝地帯におけるモロッコとポリサリオの武装部隊の介入に「深い懸念」を表明するコミュニケを発表した。

(イ) 潘基文国連事務総長はそれぞれに対して、現状を修正する「全ての行動の停止」

を求めるとともに、「全ての付随的なエスカレーションを回避し、MINURSOが両者と協議を行うために」、当該地域からの全ての武装した者の撤退を要請した。

(ウ) 28日のこれより早い段階で、ポリサリオに近い複数のニュースサイトは、モーリタニア国境付近に独立運動派の戦闘員が到着したと報じていた。この地域では、モロッコがモロッコ＝モーリタニア間の国境事務所をつなぐ道路をアスファルトで舗装し始めている。

(エ) 国連は両者に対して、第1軍事協定と停戦にかかる義務の尊重を求めている。

3 中東関係

(1) アラブ連合軍によるイエメン空爆へのモロッコ空軍機の参加

(ア) 9日、イエメン政府に同盟するアラブ連合軍はサヌア地域における空襲を実施し、モロッコ王立軍(FAR)の戦闘機も参加した。国連の仲介で行われたイエメン和平交渉の明らかな失敗から3日後の9日、イエメン政府を支持するアラブ連合軍がサヌア地域において集中的な空襲を行い、反乱軍により制圧されている首都空港が閉鎖された。サウジ主導の連合軍が、イエメン首都を標的に空爆を行うのはここ3か月強で初めてのことである。

(イ) 集中的な外交交渉がタンジェのサルマン・サウジ国王別荘で行われ、アラブ諸国の首長等が、この戦闘の再開を話し合った模様。

(ウ) イエメンとの国境100kmの地点にあり、サウジ南西の山脈地帯に位置するハミース・ムシャイトのハーリド王基地に駐機していたモロッコ空軍のF16戦闘機が、サウジ支援のために、敵の防衛システムの先行破壊を目的とした敵防空網制圧・敵防空網破壊(SEAD/DEAD)作戦の一環である今次空爆に参加した。

(エ) 空襲は7月最終週にタイズ県南部で行われていたが、確認されているモロッコ軍戦闘機の最後の空襲への参加は2015年末であり、サヌア北部で、ジョウフ県マジユザル(Majzar)における反乱軍の支援勢力を壊滅させた際に参加していた。また、モロッコ軍戦闘機は、ホーシー派の歴史的な防塞であるイエメン北東部への空爆にも参加していた。

(オ) メズアール外務・協力大臣は衆院外交委員会で、モロッコ軍戦闘機はア首連の指揮下で参加したと述べた。また、別の報道によれば、5機のモロッコ軍F16戦闘機(2015年5月に1機が墜落するまでは6機)はサウジの指揮下に入ったとのことである。

(2) モハメッド6世国王によるサルマン・サウジ国王訪問

7月30日、モハメッド6世国王は、タンジェに私的滞在中のサルマン・サウジ国王を訪問した。この表敬には、エル・ヒンマ国王顧問、ハッサド内務大臣、ベンスリマン将軍、ハムーシ国家安全総局(DGSN)総局長兼国土監視総局(DGST)総局長が同行した。なお、タンジェ滞在中のサルマン国王には、ハマド・バーレーン国王(7月19日)、バシール・スーダン大統領(7月27日)、ムハンマド・アブダビ皇太子(7

月31日), アブドゥラー2世・ヨルダン国王(8月3日), サルコジ元仏大統領(8月3日), シェイク・タミーム・ビン・ハマド・アール・サーニ・カタール首長(8月6日), サバーハ・クウェート首長(8月8日)がそれぞれ訪問している。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
8月9-11日	マレーシア	ムッサーリ高等教育・科学研究・幹部養成大臣付特命大臣	実務訪問
8月15日	中国	エル・オマリ真正と現代党（PAM）党首	劉洪才（Liu Hongcai） 中国共産党中央対外連絡部副部長との会談
8月16日	ドミニカ共和国	ベンシャマシュ参議院議長	メディーナ大統領就任式典出席
8月24日～	仏	モハメッド6世国王，ムーレイ・ハッサン皇太子	私的滞在

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
(7月19日)	バーレーン	ハマド国王	私的滞在
(7月27日)	スーダン	バシール大統領	私的滞在
(7月31日)	UAE	ムハンマド・アブダビ皇太子	私的滞在
8月3日	フランス	サルコジ元大統領	私的滞在
8月3日	ヨルダン	アブドッラー2世国王	私的滞在
8月6日	カタール	シェイク・タミーム・ビン・ハマド・アール・サーニ首長	私的滞在
8月8日	クウェート	サバーハ首長	私的滞在
8月23-24日	ナイジェリア	アミナ・モハメッド環境大臣	メズアール外務・協力大臣との会談, エル・ハイティ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣付環境担当特命大臣との会談

(了)